

多文化共生のまちづくり

-文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」2017 -

Gehrtz 三隅 友子
 GEHRTZ-MISUMI Tomoko
 徳島大学国際センター

要旨

国際センターは、平成 25-27 年度に文部科学省の留学生交流拠点整備事業「異文化キャラバン隊による国際化と新たな地域の創成-留学生との交流による多文化共生まちづくり-」を実施した。28 年度からは文化庁の「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」スタートアッププログラム（3 年計画）を受託した海部郡美波町、さらに 29 年度からは美馬郡つるぎ町の両事業にコーディネーターとして関わっている。地域を舞台とした「とくしま異文化キャラバン隊」のこれまでの活動を基盤として、県の西南部を拠点とする本事業の 2017 年度の取組を概観し、地域の在住外国人に対する日本語教育の課題を考える。

キーワード：多文化共生・対話・移民・やさしい日本語

1. はじめに

筆者は、平成 28 年度から海部郡美波町が採択された文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語事業（地域日本語教育スタートアッププログラム）」（注 1）の地域日本語教育システムコーディネーターとして関わっている。さらに 29 年度からは美馬郡つるぎ町の同事業のコーディネーターとして、県内の両町の多文化共生をめざす活動を協力連携して実施している。徳島県内の両町それぞれへの働きかけとともに、今年度からは徳島大学（徳島市）の開放実践センターにおいて「多文化共生のまちづくり」講座を開催し、新たな地域作りを目指す人材の育成を行ってきた。徳島型「多文化共生のまちづくり」の提案とその実現に向けての現段階での取り組みを考察する。

2. 地域日本語教育スタートアッププログラム

2.1. 事業の概要

本事業は、日本語教室が開催されていない地域の在住外国人に対しての日本語を学ぶ機会を提供するために、教室開催に取り組む予定の自治体を支援するものである。各自治体に専門家チーム（アドバイザー）が 3 年サポートにあたり、また実際に教室を開設のための実動部隊として、行政と日本語教育に関わるコーディネ

ーターを配置している。

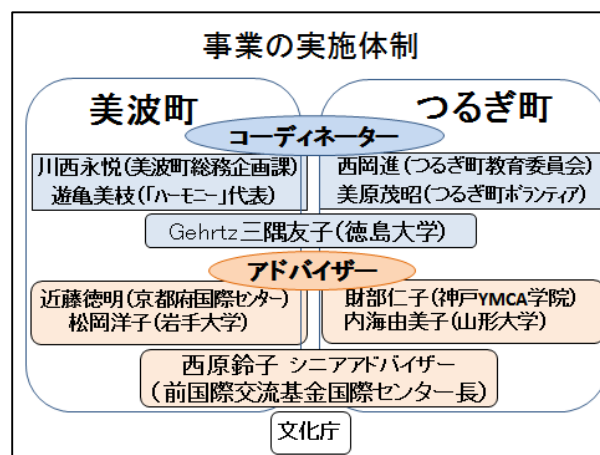


図 1 人材配置図

さらに、徳島県内では平成 29 年度からは美波町とつるぎ町の二つの町が採択されたことにより、徳島大学の筆者をまとめ役とした県の西部と南部をつなぐ形での実施が可能となっている。両町には、それぞれの町のみを考えるのではなく、つるぎ町には県西部の三好郡三好市、東みよし町、美馬郡美馬市も含めた「にしあわ観光圏」の中でのモデルと、また美波町は、海部郡内の牟岐町、海陽町といった県南部のモデルの役割になることを明言し、広く県の部局からも協力が得られるように配慮している。



図2 美波町とつるぎ町の位置

2.2. 事業の背景（総務省プランとの関連）

日本語教室の開設から定住外国人の受け入れ促進を可能にすることが本事業の目的である。それは言い換えれば「新たな移民の可能性を考える」ことが前提にあると言えよう。

交流拠点事業においては、留学生を活用した「多文化共生のまちづくり」を目指していた。本事業では「生活者としての外国人」に対して日本語教育を保障し、住民として参加を促し地域を活性化しようとしている。一方では外国人側にも日本語学習を要求するのではなく、受け入れる側の日本人への新たな日本語教育の必要性を唱えている。いわゆる「やさしい日本語」を互いに共有し使うことも本事業の目標の柱である（注2）。

また、2006年に総務省が策定した「地域における多文化共生推進プラン」（注3）は、以下の四つの基本的な考え方を明示している（図3）。

- 1) コミュニケーション支援
 - ①地域における情報の多言語化
 - ②日本語及び日本社会に関する学習支援
- 2) 生活支援
 - ①居住 ②教育 ③労働環境④医療・保健・福祉 ⑤防災 ⑥その他（留学生支援等）
- 3) 多文化共生の地域づくり
 - ①地域社会に対する多文化意識啓発
 - ②外国人住民の自立と社会参画
- 4) 多文化共生の推進体制の整備

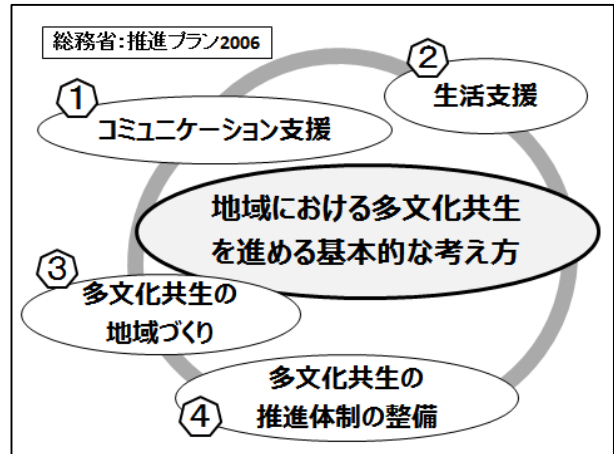


図3 地域における多文化共生プラン

すなわち、本事業は、日本語教育支援と地域社会に対する多文化意識啓発の二つに特に焦点を当てて、地域における多文化共生を進めるものである。

2.3. 町と大学の連携

本事業の実施にいたるまでには、次のような経緯があった。徳島県国際交流協会（TOPIA）は以前から日本語教師の養成を行い、県内の日本語教育の普及に努めていたが、南と西の地区に日本語教室がなく、また学校教育においては日本語教育の専門家が徳島市から派遣される状況であることを懸念していた。大学は交流拠点事業を実施する中で、留学生を通じた地域の国際化を進め、美波町とは「日和佐八幡神社」の祭支援から町との繋がりが出来ていた。さらに、活動を通して国際化には留学生や在住外国人といった日本語学習者側の問題、すなわち日本語学習だけでないことにも気づかされていた。特に外国人との接触が少ない地域では、前に述べた日本人への啓発が同時に行われなければならないという点である。このような中でTOPIAから文化庁のスタートアッププログラムの紹介を受け、美波町の日本語教師の資格を取得しまさに実践しようとする人材（元小学校教員の地域日本語教育コーディネーター）を中心に、美波町が県内外からの移住受入及び近年開催されるトライアスロン世界大会の準備を進めている等の状況が合わさって、平成28年度から取り組むこととなった。

一方、つるぎ町は県内に通知された本事業に

関心を持った教育委員会が、TOPIA と大学に相談後、平成 29 年度分に応募し採択され、南と西を結んだ現体制ができた。

3. 美波町（初年度から 2 年目）

美波町は、23 番札所の薬王寺と海亀が産卵をする大浜海岸で有名な海辺の町である。在住の外国人数は少ない（注 4）が、近年のお遍路人気で町の中で外国人遍路を見かけることが多く、住民の中に外国というのが身近に感じられている状況である。そうして前述のコーディネーターを中心に①在住外国人の実態及びニーズ調査②ボランティアの会の結成③在住外国人と地域住民の交流の場の企画運営を行っている。

平成 30 年 3 月時点の成果として、①のニーズ調査からは差し迫った要望はないが、技能実習生として居住する中国及びフィリピン人に対して日本語指導を続けている。それは今後の外国人受け入れに対し、必要な時に稼働できる、学びたい人のための「日本語教室」の準備と考えている。

②に関しては、初年度の 1 月に「美波町多文化共生ネットワーク・ハーモニー」を結成した。月 1 回の例会において約 15 名のメンバーが、事業に関する情報交換そしてイベントの準備を行っている。このうちの数名が徳島大学での公開講座「多文化共生のまちづくり」に参加している。

さらに③のイベントは、10 月の平成 25 年から今年で 5 回目になるとくしま異文化キャラバン隊による「日和佐の魅力発見！プロジェクト」支援から始まり、11 月の「日和佐・にこにこ人権フェスティバル」にて異文化交流のブースを設営、1 月には、在住外国人を対象とした「防災ワークショップ in 美波」と観光ボランティアによる「街歩き」の体験会を実施した。2 年目の 4 月には「桜&古民家ツアー」を 7 月にはウミガメ祭に合わせて「浴衣着付けイベント」を行い、美波町の在住外国人や徳島市内からの外国人の参加を得て、美波町の魅力を互いに味わう場を設けられている。また在住外国人

対象の防災ワークショップも昨年に続いて 2 回目を実施している。

以上のように「ハーモニー」を中心に、町内での協力体制が充実し、多文化共生の歩みを進めていると評価できよう（注 5）。

現段階の課題の一つは、海部郡のモデルとしての役割を果たすためにも、牟岐町、海陽町への事業拡大をいかに実施していくかである。何よりも人のつながりをから始めることとし、交流イベントや講演会等の啓発活動を通して観光関連及び教育関係へ働きかけを進める予定である。さらに二つ目は、文化庁の支援が終わる平成 31 年からの自立に向けての準備である。特に日本語教室や啓発のための活動が続けて実施できるように、人材と予算の確保を検討している。

4. つるぎ町（初年度）

つるぎ町は、平成 17 年に半田町、貞光町、一宇村が合併して誕生した徳島県西部の山間部の以前はたばこと林業で栄えた地区である。こちら在住外国人の数は少なく（注 6）、永住者やその配偶者らには日本語学習のニーズも低い。教育関係者からは地域住民としての統合が今一つ図れておらず、新たな外国人住民の参入を踏まえた、地域の文化を理解し共有するまちづくりを考える必要があった。

そこで、まず地域の「生活者としての外国人」に対するアンケートによる調査を行い、その結果に従ってどのようなサポート体制取るのかを検討した。対象者の 33%の 10 名から回答が得られ、日本語使用に関しては困っていないが、コミュニケーションがとりにくいことや、日本の文化や習慣について問題があるとした人が半数いた。さらにそのうちの 7 名が、今後日本語教育等に関する情報提供の送付先として住所等の記載があった。この結果からアドバイザーからも、さらに綿密な対面調査をすることや、またこの外国人住民を本事業に取り込んで活動をしていく必要性を示唆された。

すでに 8 月には、多文化共生を考える会「ともに」を結成し、月二回の例会と多文化交流イ

ベントの企画と実施を進めていた。この「ともに」の活動にこの在住外国人がメンバーとして加わってもらうことを考えている。11月には隣町の美馬市のとくしま異文化キャラバン隊による「オデオン座国際プロジェクト」の支援と、「貞光街歩き&英語マップ作り」を行い、ALT及び徳島大学の留学生らと普段見慣れた町の新たな魅力探しをメンバーで行った。1月には、徳島大学の日本語初級の留学生らを招いて「はじめまして!!世界の国々」を実施した。ホームステイと地域住民に対してのお国紹介後、うだつの街歩きと古民家での茶道をとともに楽しむ活動を行った。

外国人自体と触れあう機会が少ない地域性を鑑み、とくしま異文化キャラバン隊との交流から、住民への新たな意識作りが必要なことも少しずつ把握できたように思う。

今後の課題としては、教育にとどまらず観光や経済といった部署の協力を仰ぎつつ、にし阿波観光圏のモデルとしての外国人の活用を広く発信していくことと、美波町を含め県内外での他地域の取組からヒントを得て、つるぎ町ならではの「有形無形の文化」をとともに継承しながら「多文化共生のまちづくり」に向けての活動を実施する予定である。

5. 徳島大学（徳島市においての）の取組

次の三つを柱として活動を実施した。

1) 多文化共生イベント及び日本語教室の開設支援

とくしま異文化キャラバン隊の継続事業として「日和佐の魅力発見！」活動と「オデオン座国際プロジェクト」を両自治体と連携協力して行う。それぞれの町の新たなイベントに関しては、企画から関わりヒントの提供と運営の支援をする。特にコーディネーターには、今後の活動作りのヒントとして大学のイベントにも多く参加してもらい評価にも関わってもらっている（資料1）。美波町の日本語教室に関しては、教材や方法に関しての相談に対応している。

2) 日本語教育人材育成の講座の実施

徳島大学開放実践センターにおいて、地域住民対象に「多文化共生のまちづくり」講座を行っている。平成29年度は、春夏・秋・冬の3期に、平日の夜1回2時間で計29回（文化の森での交流活動も含む）実施し、のべ37名の受講があった。地域の日本語教育及び交流活動を担う人材の養成と県内でのネットワークづくりを目的としている。両町からもコーディネーター及び住民の参加を促し、講座内で本事業を広報するとともに、進捗状況の報告も合わせて行っている。

3) 両町の連携強化と県内への広報

徳島県内のモデルとして二つの町の活動と成果を県内に波及させる取組として、それぞれのキックオフ会議に両関係者が出席すること、さらに連携会議を2月に実施した（表参照）。

日	地域と内容
10日 (土)	<p><つるぎ町>（参加者約30名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会『生活者としての外国人』のための日本語事業が目指すもの講演（西原 SA） ・地域の現状報告 ①「山形の取組『日本語サター』について」（内海 A） ②「地域住民と共につくる日本語教室（兵庫県の取組み事例より）（財部 A） ③つるぎ町 現状報告と課題（西岡 C+三隅 C）
11日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・とくしま GG クラブ例会視察（参加）（留学生と「文化の森ウインターフェスティバル」の交流） ・連携会議<美波町・つるぎ町>（両町関係者+文化庁） ①取組報告「美術館で話そう！」（三隅 C） ②徳島県内での二町の取組に関しての意見交換
12日 (月)	<p><美波町>（参加者約60名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会「外国人と『やさしい日本語』でコミュニケーション～多文化共生のまちづくりをめざして～」（松岡 A） ・今年度の取組及び課題報告（遊亀 C+三隅 C）

10日にはアドバイザーによる本事業の目的、山形及び兵庫での取組の報告を参加者で共有した。11日には両町の関係者が集まり連携会議を行うことができた。12日には、美波町にて「やさしい日本語」に関する講演により、地域住民に望まれていることや今何が必要なのか伝えられた。このようにして次年度へ協力体制への足がかりが得られた（注7）。

6. 日本の現状と今後に向けて

2017年の本事業の徳島県における取組を振

り返る中で、2018年2月に日本国際交流センター（JICE）の自治体に向けたアンケートの結果による「日本の地方自治体における多文化共生の現在と今後」の報告が出された（注8）。そこでは、すでに外国人住民の割合が多い地域では多文化共生推進のための整備を少しずつではあるが進める必要があるという認識が高まっていることが、そして外国人受け入れの拡大を認めるか否かに関しては、それぞれの地域の在住外国人の特徴（永住者・配偶者・技能実習・留学）によって差があるが、外国人の増加による、治安と日本人に対する労働条件の悪化への懸念はどの地域も低くなっていることも報告されている。このように外国人の受け入れに対して好意的である一方、移民政策に関しては「包括的な移民政策を検討すべき」「現在のよう限定した受け入れが望ましい」の回答に対して、「これ以上の受け入れ拡大策は必要でない」「移民政策は必要ではない」という否定的な意見は全くないものの、半数以上が「わからない」としている。

現実に少子高齢化、過疎化が進んでいる地域、すなわち徳島県の両町では「わからない」では済まない実状に直面している。

報告書では、地域ごとの課題に取り組む必要性和同時に、地域レベルでは解決できないことを見据えて、敢えて国としての「移民政策」の必要性を早急に明確にし、現実の法的整備も必要であると示唆している。

徳島県内での本事業への取組を通して、海外の移民政策そして国内の他地域の効果的な実践から学び、すでに居住する「生活者としての外国人」と、新たに日本に移住してくる人たちを受け入れられるような「多文化共生まちづくり」を今後も進めていきたいと考える。

注

注1. 本事業の詳細は文化庁「日本語教育スタートアッププログラム」の以下のURLを参照されたい。

http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_progr

[am/index.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/index.html)

注2. 「やさしい日本語」に関しては、共通言語としての日本語を日本人と日本語学習者がともに学びあうことの必要性が問われている。詳細は庵久雄の「やさしい日本語-多文化共生社会へ」2016 岩波新書を参照のこと。

注3. 総務省自治行政局国際室長「地域における多文化共生推進プラン」2006年3月

注4. 美波町の人口は7041人、外国人52人、外国人住民比率0.74%
(H.29/9/1)。

注5. 美波町での本事業の活動は以下のブログで詳細を記述している。

<http://hiwasa33.blogspot.jp/>

注6. つるぎ町の人口は9272人、外国人34人、外国人住民比率は0.35%
(H.30/1/1)。

注7. 両町の取組と今後の課題は文化庁の日本語教育コンテンツ共有システムに掲載されている。<http://www.nihongo-ews.jp/>

注8. 日本国際交流センター「日本の時報自治体における多文化共生の現在と今後」
「多文化共生と外国人受け入れのアンケート調査2017 調査報告書」

参考文献

Gehrtz 三隅友子 (2016)「多文化共生のまちづくり・未来への第一歩-提言作成とフューチャーセンター」2015年度徳島大学国際センター紀要P.37-46

Gehrtz 三隅友子 (2016)「留学生との交流による多文化共生のまちづくり-とくしま異文化キャラバン隊の活動を通して-」ウェブマガジン『留学交流』2016年7月号Vol.64P.1-12

Gehrtz 三隅友子 (2017)「留学生との交流による多文化共生のまちづくり-とくしま異文化キャラバン隊 2016-」徳島大学国際センター紀要P.5-14

毛受敏浩 (2016)『自治体がひらく日本の移民政策-人口減少時代の多文化共生への挑戦』明石書店

資料 とくしま異文化キャラバン隊+文化庁日本語教育事業 2017 実績						
	日付	地域	活動及び内容	場所	キャラバン隊	日本人学生
1	5月25日	徳島	漬物試食体験会 ハラル認証・漬物を世界へ	フューチャーセンター	20	
2	6月8日	徳島	ものづくり人づくり体験交流会	フューチャーセンター	10	
3	6月12-16日	美波	日和佐八幡神社秋祭り 写真展とミニ報告会(15日)	地域創生国際交流会館	10	8
4	6月25日	徳島	ホームビジット 藍住町国際交流協会	藍住町	6	
5	6月29日	徳島	鴨島小学校訪問交流	吉野川市 鴨島小学校	4	
6	6月12-16日	徳島	高校訪問講義 多言語カフェ「中国語と台湾事情」	徳島市 徳島市立高校	1	
7	7月8日	徳島	徳島県立美術館×開放実践センター 講座	徳島市 文化の森	5	
8	7月10日	徳島	市立高校 特別講義「多文化共生と私たち」	徳島市 徳島市立高校	0	
9	7月13日	徳島	半田そめん+柚子っ子 ハラルレシピ試食体験会	フューチャーセンター	16	
10	7月14日	徳島	福島小学校訪問	徳島市 福島小学校	5	
11	7月19日	徳島	市立高校 中国語講座	徳島市 徳島市立高校	6	
12	8月1日	美波	児童との交流 黒地児童館 阿南市	阿南市 黒地児童館	4	
13	8月9日	徳島	サマースクール 邦楽茶道 文化体験	地域創生国際交流会館	40	
14	10日	徳島	文化の森魅力発見 7月20日午後博物館で事前学	徳島市 文化の森	40	20
15	10月7-8日	美波	日和佐八幡神社秋祭り	美波町 日和佐	32	16
16	10月27日	徳島	バンドクラブ×市立高校多言語ラボセッション	徳島市立高校	15	3
17	28日	徳島	外国人遍路体験① 1番から5番札所	徳島市	12	
18	11月2日	徳島	自治研修センター 国際化講座	フューチャーセンター	26	
19	11月18-19日	つるぎ	オデオン座国際プロジェクト	美馬市	30	14
20	11月23日	つるぎ	つるぎ町貞光うだつのまちなみ魅力発見	つるぎ町	1	
21	11月25日	美波	美波町人権フェスティバル	美波町 日和佐	0	
22	11月29日	徳島	徳島GGクラブ例会 講演会+親睦会	フューチャーセンター	0	
23	12月7日	徳島	バンドクラブ×市立高校多言語ラボセッション	地域創生国際交流会館	16	3
24	12月8日	徳島	開放実践センター講座&徳島GGクラブ例会 午前	徳島市 文化の森	10	
25	12月9日	徳島	外国人遍路体験② 鶴林寺	勝浦町	10	
26	12月20日	美波	総務省/外務省 車座ふるさとトーク 参加報告	北島町	2	2
27	12月14/21日	徳島	「徳島大学留学生誘致作戦」フューチャーセッション①②	フューチャーセンター	16	
28	12月16日	徳島	徳島大学ファーマーズマーケット助任の丘	助任の丘	5	6
29	12月17日	美波	防災ワークショップ 美波町	美波町 日和佐	0	
30	1月11日/25日	徳島	「サツマイモのニーズおよび嗜好性調査」	フューチャーセンター	30	
31	1月19日	徳島	市立高校 交流会 IRP Ichiko Rainbow Plan	徳島市立高校	9	
32	1月19日-20日	つるぎ	つるぎ町半田 ホームステイと多文化交流会	つるぎ町	9	
33	2月4日	徳島	国際女子教育連合会徳島支部主催 講演及び地域在住外国人の報告会	徳島市アスティ	2	
34	2月11日	徳島	徳島GGクラブ例会+開放実践センター講座 午前 ウィンターフェスティバル参加	徳島市 文化の森	8	3
活動数34				キャラバン隊参加者 424人		